

## 「家庭教育応援隊養成講座」第2回地区研修

東青地区 平成30年7月7日(土)県総合社会教育センター 受講者数19名  
三八地区 平成30年7月18日(水)八戸市総合福祉会館 受講者数34名

第2回地区研修では、東青地区は 青森県教育カウンセラー協会 副代表 佐々木 順子 氏、三八地区は、児童心理治療施設「青森おおぞら学園」理事長・施設長 鳴海 明敏 氏 を講師にお招きし、「傾聴と親が育つ支援のあり方」について研修を行いました。

### 《第2回東青地区研修》7/7(土)

#### 1 講義「傾聴と親が育つ支援のあり方」 講師：青森県教育カウンセラー協会 副代表 佐々木 順子氏

上手な傾聴や心に寄り添う会話の仕方、褒め言葉の働きなどについて、ワークショップも交えながら御講義くださいました。さらに、上級カウンセラーとしての経験を活かした聞くことの重要性や、人間関係の上手な築き方のコツなどについて学びました。

(1)「リレーション」…言語(受容・支持)より、**非言語(表情・視線等)の方が伝わりやすい。**

(2)「上手な傾聴」…相手の話に関心を持ち、意識を集中させ、自分の主観や価値観で判断せず**相手の身になって理解しようとする。**言葉による意思伝達はわずかで、大部分は非言語コミュニケーションである。

(3)「ほめて育てる」…ほめことばは「**言霊**」として言語中枢神経にいつまでも残る。自己肯定感が育つ。

(4)「人間関係のコツ」…**3種類の援助が大切**となる。①「ワンネス(相手の身になり共感しようとする)」

②「ウイネス(相手の世話をする身内意識)」③「アイネス(愛情を込めて言うべきことは言う)」



講師の佐々木順子氏

#### 2 演習「あおもり親楽プログラムⅠ」

進行 県総合社会教育センター職員

今回は、あおもり家庭教育アドバイザーについて説明を行った後、「あおもり親楽プログラムを体験しよう」のテーマの下、『あおもり親楽プログラム1～乳幼児・小学生編』のテキストを使い、班ごとに研修会に参加する保護者の立場を体験していただきました。

研修を進めていく場合のポイントは、①参加者が**安心して学習できるような雰囲気**をつくる ②**参加者の主体性を尊重し**、自らの気づきを引き出す ③**流れの調整**をする 以上となります。



東青地区研修の様子

#### 3 受講者の感想

- ・傾聴とは?から知ることができました。聞くときに自分の主観で判断していたことに気づくことができたことは良かったです。
- ・相手のはじめに語ったことより、後に語ったことが本質ということも大きくうなずけました。プラスになったことばかりで書き切れませんが、今日参加できて良かったです。
- ・午後のあおもり親楽プログラムは、とても楽しかったです。同じ視点の方もいれば、違う見解の方もいて、たくさんの気づきが生まれました。「子育てに正解はない」を実感でき、たくさんの打開策を見つけることができました。

## 《第2回三八地区研修》7/18(水)

### 1 講義「傾聴と親が育つ支援のあり方」

講師： 児童心理治療施設「青森おおぞら学園」

理事長・施設長 鳴海 明敏 氏

受講者同士で意見交換したり、体を使って可視化しながら考えたりすることで、支援の本質や傾聴について理解し、また、子供の育つ環境をみんなで協力して、よりよいものにしていこうという充実した時間になりました。

また、ノルウェーの短編アニメーション『パパ、ママをぶたないで!』（2009）は、両親の暴力を子どもの視点で描いた内容で、子どもを取り巻く環境について考えさせられる印象的な内容でした。

- (1) 「支援とは」・・・荷物を一旦降ろして、中身を整理したり、背負い直したり、**減らせる荷物はできるだけ減らすお手伝い**。その人の荷物は、その人がまた背負っていかねばならない。参考絵本：新美南吉作『でんでんむしの悲しみ』
- (2) 「傾聴とは」・・・①自分のことはひとまず脇に置いて、**相手の話を聞くこと** ②理解した話の内容について、**これでいいのかと相手に確かめること**
- (3) 「同情・同感・共感」・・・①同情（別の地点からの発言）②同感（忠告・アドバイス）③共感（傾聴）
- (4) 「エンパワーメントするということ」・・・**その人が本来持っている「力」**を、その人自身の内側から湧き出させてこられるようにすること

### 2 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」

※講義内容は基本的に両地区共通

### 3 受講者の感想

- ・「その人の荷物は、その人がまた背負っていけるようにお手伝いできるようにするのが支援だ」ということが分かりました。
- ・レッテルの張り替えという言葉は、初めて聞きました。自分と向き合うこと、向き合い続けること、客観視すること、幼心を吐き出し、立て直すことをこれからも続けたいと思います。
- ・同情と同感がどんなに違うかを先生のお話で実感できました。人を差別したり、優越感で行動したりすることのないように意識したいです。
- ・親のDVに関するアニメについては、衝撃的な内容で苦しくなるほどでした。特に、最近の事件などと重なり、「外からは何も見えないよ」という子供の言葉が”世間の目”の必要性に改めて気づかせてくれました。
- ・「あおもり親楽プログラムⅠ」では、グループの方とも話したが、「我が子の子育ての時に、このようなプログラムが用意されていればな・・・」とのことでした。今まさに真っ最中である私、また我が子はとても幸運です。この幸運を、ぜひ地元のご家族にお届けできたらと強く思います。



講師の鳴海明敏氏



三八地区研修の様子